

ニサンザイ古墳 見学と講演会 レポート

昨年度の秋～冬、宮内庁と堺市が同時調査をおこないました。堺市の調査の責任者だった土井和幸さんに、その成果の最新情報をお聞きし、見学ガイドをしていただきました。

参加は中学生や教員、市民など31人。お話を聞かれた校長先生が、「いい話だった。先生らがもっと参加して勉強したらいいなあ」と言っておられました。



すばらしい古墳
興味がわいてきた
最新情報に感激
勉強になった！

みなさんの感想から

「美しい濠を見ながら古墳の周りを歩くことができ、楽しい体験ができ、いい思い出となりました。」

「たいへんよい勉強になりました。古代史を探求し、古墳群の魅力を感じつつ、

古墳の周りや町の清掃にも精進していきたいと思えます」

「ニサンザイのすばらしさ、初めて知りました。久しぶりに歴史の学習ができてよかったです」

「ニサンザイの橋の部分についてよくわかりました」(百舌鳥)

「有意義に拝聴させていただきました。柱穴から、ニサンザイ古墳に橋が架かっていたことを知り、どんな目的で造られたのか興味津々です」「最新の文化財発掘の話が聞け、よい刺激となりました」(

「初歩的などころからていねいにお話いただき、よくわかりました。

地道でたいへんな発掘の仕事から、昔習った頃には想像できないような古代の建造物が、どんどん分かってきているのが実感できました。いくつかの遺跡から、鳥がよく出てきているのも面白く思いました」

「ていねいな説明、どうもありがとうございました。中学生も参加し、積極的に質問しており、とても頼もしかったです」

「お話を聞かせていただいて、ニサンザイ古墳や堺の歴史について、とても興味をもつことができました！歴史がもっと好きになりました。これから、たくさん学び、知りたいです。

改めて、私たちの校区やまちに、歴史的な古墳があることを誇りに思いました！

千何百年も前につくられたものが、現在に伝わっているのはほんとうにすごいことだなあと思えます。

新聞を通して、このことを伝えていきたいです。

世界でも珍しいことだと思うので、外国の方にも知ってほしいと思いました。堺から世界へ広げていきたいです。とても勉強になりました。」(中学生)



講演「ニサンザイ古墳の発掘と研究からわかったこと」

堺市文化財課 主査

土井和幸さん



古墳と古墳時代

古墳時代というのは、「盛り土のある昔のお墓」である「古墳」が
つくられた時代です。稲作のはじまり・金属器の使用・ムラからクニ
への大きな社会的変化のあった弥生時代の次の時代で、3世紀から7
世紀にあたります。一番古い古墳は、奈良県の^{はしはかこふん}箸墓古墳で3世紀中頃
につくられ、邪馬台国の女王卑弥呼のお墓ではないか、とも考えられ
ています。

大山古墳やニサンザイ古墳など百舌鳥古墳群の古墳がつくられ
たのは、この古墳時代の中期、4世紀後半から5世紀で、泉北丘陵で
は須恵器が盛んに焼かれた時期でもあり「倭の五王」という当時の中
国の歴史書に書かれている5人の日本の大王がいた頃です。百舌鳥古
墳群や古市古墳群には、この「倭の五王」のどれかのお墓があると考

えられます。

古墳には、円墳・方墳・前方後円墳・帆立貝形古墳（前方後円墳のうち前方部が小さい古墳）・前方後
方墳などいろいろな形がありますが、百舌鳥・古市古墳群には、円・方・前方後円墳や帆立貝形古墳が多い
です。古墳の形と規模のちがいは、それぞれの古墳の被葬者の地位や権力のちがいをあらわし、古墳時代の
日本の政治的な状況を理解することが出来るとされています。

百舌鳥古墳群のねうちと移りかわり

奈良県や大阪府など近畿地方に集中している墳丘長300mを超える巨大な前方後円墳は、当時の日本の支
配者である大王の古墳であり、各地の王または豪族の古墳は、200mクラス以下の規模となります。大王や
王の家臣たちは、より小さな帆立貝形古墳・円墳・方墳に葬られたと考えられ、なかには甲冑や武器・工具
などが出土した古墳もあります。百舌鳥・古市古墳群は、超巨大な古墳を核として、この古墳の形（例えば
格を表す）と規模（例えば力を表す）の違いがひとつの古墳群のなかに凝縮されており、古墳時代中期の状
況を反映していると考えられます。これは世界遺産に該当する価値を持つ、他の古墳群ではみられない、古
墳時代を代表する百舌鳥・古市古墳群の歴史的な意義と言えます。

近年古墳に立て並べられている円筒埴輪の研究がすすんで、古墳の新旧がわかるようになってきました。
埴輪の焼き方（野焼き→^{あながま}窰へ）、表面のしあげ方（ランダムな模様→すっきりした模様へ=作業の省力化）、
突帯の形（表面につけてある帯状のもの・最初はM字状→台形→なでただけ）や間隔などの変化から、古
墳がつくられた順番がわかってきています。百舌鳥古墳群では、乳岡古墳→上石津ミサンザイ古墳（履中天
皇陵古墳）→大山古墳（仁徳天皇陵古墳）→ニサンザイ古墳の順につくられました。

8月はじめに現地説明会があった長山古墳は、乳岡古墳と同じ頃か、もっと古いかもしれない前方後円墳
で、墳丘は削られていましたが、周濠が残っていました。葺き石が検出され、乳岡古墳と同様に車輪石が見
つかっています。

ニサンザイ古墳 宮内庁と堺市の同時調査

2012年秋から2013年春まで行われ、いろいろなことがわかりました。2008年に同時調査された御廟山古
墳と同様、ニサンザイ古墳の墳丘の裾が周濠の水のために削られてきたので、どのような補修工事をするの
かを定めるため、また墳丘のテラスや斜面の状態を確認するためです。墳丘は管理している宮内庁が、周濠

は管理している堺市が発掘調査しました。陵とされる古墳は、墳丘も周濠も宮内庁が管理していますが、御廟山古墳やニサンザイ古墳など陵墓参考地は、宮内庁が管理しているのは、墳丘だけの場合があります。

ニサンザイ古墳は、百舌鳥古墳群で最後につくられた大型前方後円墳です。百舌鳥では、まず海岸部に乳岡古墳がつくられ、その後上石津ミサンザイ、大山、田出井山古墳が段丘の輪郭にそって、海からよく見えるように、海を意識してつくられました。そのあとは内陸部にニサンザイ古墳がつくられました。周辺部には、大小さまざまな古墳が築造されています。

堺市は、墳丘北側のくびれ部から造出しにかけてと、後円部の主軸線上（墳丘の後円部から前方部を貫く真ん中の線、対称軸になる縦線）を調査しました。くびれ部の葺石はほとんどありませんで

た。造出しは、現在台形のように見えますが、前方部とは直角についているので方形だったようです。また 12 世紀ごろに造出しから転落したと考えられる埴輪が濠に残っており、いろいろな木製品もみつかりました。手の込んだ細工が施された鳥形とおもわれる製品は、蓋などの立ち飾りかもしれません。墳丘の 1 段目の斜面には、ほとんど葺き石がありませんでしたが、1ヶ所石が折り重なっているところがあったそうです。2 段目の斜面には葺き石がみられました。くびれ部の排水溝からは埴輪状土製品が出土しました。埴輪状土製品は、御廟山古墳でも葺石の目地が通るところからみつかり、葺石を葺くための目印かもしれないが、なにかマジカルな呪術的な意味があるのかもしれません。



宮内庁の現地説明・・・えんとうはにわ円筒埴輪が墳丘 1 段目を一周していました。

墳丘の長さは 300m 超 後円部から堤に橋があった？

後円部の主軸線上では、周濠に溜まったヘドロと闘いながら掘り進め、墳丘の裾の斜面から周濠に変わる斜面変換点が検出されました。現在の墳丘の裾から 5 m は外側にあるので、今回は調査できていない前方部側とあわせて 5+5 で計 10m は墳丘長が伸びると予想できます。ニサンザイ古墳の墳丘長は、現在 290m とされていますので、300m 以上ということになります。

現地説明会の時には 1 本だけしかわかっていなかった柱の周りを探してみると、他にも柱穴が確認されました。全国の古墳で類例がないかも調べましたが、他にはなく、主軸に沿って縦・横にひろがる柱穴列は初めての検出です。柱穴の深さは 1 m、柱穴上端の長さ 90 cm、底はすぼまって 30~40 cm で、南北方向に 7 本分、東西方向に 8 本分の柱穴が並んでいました。また柱穴のまわりから、一本の木で作上げた鋤が出土しました。仮設で柱を立て、抜いて、その穴を粘土で埋めています。まわりは砂礫なので、粘土は目立ちます。柱穴にささっていた柱は 2 本あり、クヌギ材です。



放射性炭素年代測定法で年代測定中です。現在この構造物は何かということについて研究中です。群馬県三ツ寺遺跡の古墳時代の豪族居館の濠でも底から柱材が出ており、濠を渡るための橋脚だろうと考えられていますが、ここの柱材は杭のようにとがっています。神戸大学の建築史の黒田先生に模型をつくっていただきました。黒田先生は、後円部にむかって何かの祭りをするための祭壇だろうというお考えです。考古学者は橋だろうという説が多く、今年2月のマスコミ発表でも周濠をわたる「橋」とされました。

美しいニサンザイ古墳・・・歩きながら実感

前方部の主軸線上のあずまやのそばから前方部北側の堤を歩いて造出しへ。さらに後円部側の墓地のそばまで行きました。

ニサンザイ古墳は、墳丘長では百舌鳥古墳群で3位、全国で8位の規模です。周濠をへだてて墳丘全体を一目で見ることができる貴重な存在で、前方部と後円部のバランスの良い、美しい墳丘をながめることができます。大仙古墳や上石津ミサンザイ古墳は、大きすぎてまわりからは全体が見えません。大仙古墳は、三重の周濠のために墳丘が見られるところは限られています。見えているのは周濠の堤に植えられた木々がほとんどです。

ニサンザイ古墳の前方部西側の御陵山公園北入り口で「このあたりが、ニサンザイ古墳の二重目の濠のあったところです」と土井さんに教えていただき、感激しました。

この日配布されたニサンザイ古墳の実測図（1：100）は、初めて印刷されたもので「本邦初公開」でした。

（樽野 美千代記）



主催 大阪歴史教育者協議会堺支部 & 堺たんけんクラブ 後援 堺市教育委員会